

バグダッド 日誌 (4月8日)

○ 緑の迷彩服

先日、班長も説明したと思うが、ここバグダッドではデザート迷彩が主流を占める。着用している私達自身は自らの緑は目に入らず、見える全てが砂漠色で何ら違和感を感じないが、日本隊の緑の迷彩服はかなり目立つらしく多くの者が声をかけてくれる。「とても気に入ってるよ」とか「初めて見たときの鮮烈な印象は忘れないね」とか…。とりあえず日本人が緑の戦闘服を着て、ここバグダッドにいることはみんな認識しているようだ。

このところ班員の戦力回復が続いており、コンテナ内においても一人でいることが多い。かなり寂しい思いをしていた。そんな中、コンテナを出てみると、調整業務に当たっていると他の班員を見つけた。確かに目立ち、遠くからでも認識できる。あまりにも嬉しくなり、「ヘイ、ヤバーニー！（アラビア語；日本人）！」と声をかけると、さわやかな笑顔で振り向いてくれた。

あとで、「困っちゃうよなー」ちゃんは！まったくー！」とが漏らしていた。

()

○

我々が当初バグダッドに来たときからに変化はない。は「 」、は「 」。である。しかし、それとは関係なく食堂等の警備員や司令部(パレス)に入るために必要な3段階にわたる検問所勤務員は していた。

先日、何の前触れもなく彼らが 。その時は付近が混雑していたため「 ？ラッキーだね！」と声を掛けて終わったが、昨日、好奇心が抑えられず彼らの警戒勤務の阻害や行列が渋滞になる迷惑を顧みず「 は変わったの？何で？」と思い切って聞いてみた。 が変わったそう。理由は治安情勢の変化や気象条件によるという。「気象？」確かに晴天が続き視界良好かつ夜間の行動の秘匿困難と言うことだろうか？それとも暑いから？いずれにせよ、イラクが平和になっていくことはいいことだと思っている矢先の今日、また厳しくチェックされた。 を求められたり、 を確認されたりした。何でだろう？また好奇心がくすぶられてきた。

もう一つ私の今の疑問。パレスの前にたむろする4羽の鳥がいて、米軍人はそれらを「クレイジー・ゲース」と呼んだり「アフラック・ダック」と呼んだりする。とりあえず餌を与えられ可愛がられていることには間違いはないが...

さて、彼らは「ダックorゲース？」

()